



Campus Life+1 2017 グランプリ夢実現レポート

全国の大学・短大・専門学校に通う学生の夢を応援する「Campus Life+1」。
昨年、約2万7000名の応募の中から見事グランプリを受賞した土井綾華さんのその後を取材。
現在、取り組んでいることは？ 夢の実現応援資金100万円の使い方は？ その思いに迫る。

グランプリ受賞後、 自分の将来が明確になった

「子どもたちに、アイヌ文化について興味を持ってもらい、地元にもっと愛着を持って欲しいと考えています」

そう話すのは、藤女子大学に通う土井さん。彼女は、昨年開催された「Campus Life+1 2017」に出場し、見事グランプリを獲得。現在、その夢を叶えるべく日々アイヌ文化についての研究を積み重ねている。そもそも彼女がこの夢を持つようになったのは、高校生のとき、父親の仕事を手伝ったことがきっかけと言う。



アイヌ文化を通じて 子どもたちの 郷土愛を深めたい！

土井 綾華さん 21歳
藤女子大学 文学部 3年
北海道出身。大学では日本史のゼミに所属し、主に北方史の研究に取り組んでいる。大学1年生の頃よりコンビニのアルバイトに勤む。

ました。そのイベントを手伝ったときに、地元にごんごんにすごい文化遺産があることに驚き、興味を持つようになりました」

土井さんが生まれ育った静内という街は、アイヌ民族たちが自分たちの領土を守るべく、戦いを繰り返した舞台。街には戦いで使用された岩跡が幾つも残されており、至るところで歴史の分岐点となった貴重な面影を感じられる。そのことを知ってからというもの、土井さんは地元のことを誇れるようになったという。しかし、その一方で多くの若者が地元を離れていき、過疎化が進んでいる。その状況をなんとかしたいとCampus Life+1 2017に出場した。

とアイヌについて勉強しないと責任感が芽生えました」

実際、3年生になりゼミでアイヌ史を中心とした北方史を専門で研究するようになったり、大学の授業でも北方史に関する授業を積極的に選択するなど、力を入れて学んでいる。加えて、アイヌ民族の博物館に足を運び、学芸員に自身の書いたレポートを見てもらいアドバイスをもらっているという。

昨年のコンテストでアイヌについてプレゼンする土井さん。彼女の熱い思いが会場は引き込まれた。



北海道には街なかにくつもアイヌにまつわる資料が展示されている。機会があれば足を運んでいるという。

100万円の使いみち

「北海道全土にあるアイヌ民族ゆかりの地を巡るフィールドワークの費用や、そこで得た知識を活かしたオリジナルの教材づくりの費用に充てたい」



応募要項

【応募資格】●現在、大学(院)生、短大生、専門学校生、高校生、高等専門学校生、高等専修学校生の方(20歳未満の方は保護者同意の上ご応募ください)●日本国内に在住している方。国籍は問いません。●団体での応募も歓迎(最終選考出場は1チーム5人までとする)●2019年3月に東京にて開催予定の最終選考に参加いただける方※詳細は一次選考合格の方へご連絡の際にお知らせいたします。●過去に「Campus Life+1」にご応募いただいた方の応募も可能です。

右下のURL、2次元バーコードからサイトにアクセスし、必要項目をご記入ください。

エンタク 検索 <http://entac.jp/>

応募期間:2018年7月20日(金)~2019年1月20日(日)

